

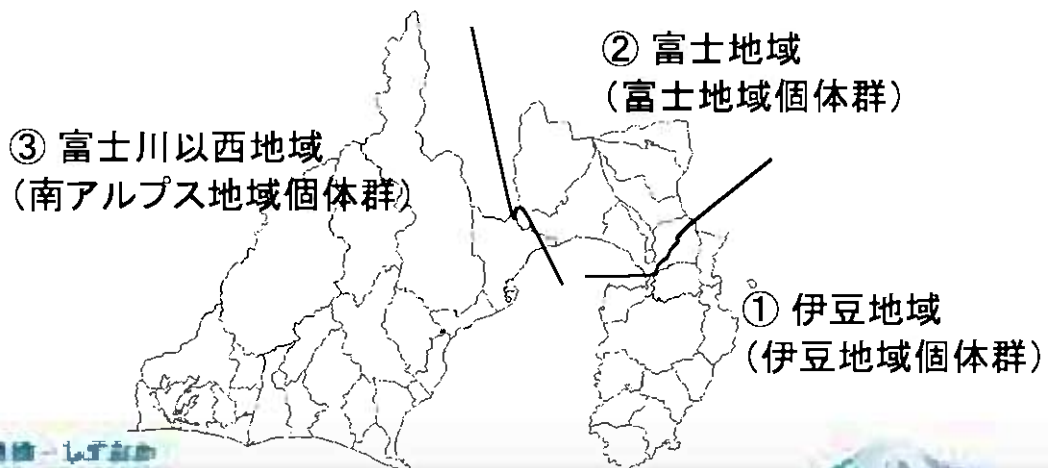
都道府県知事が作成

第一種特定鳥獣保護計画	第二種特定鳥獣管理計画
その生息数が著しく減少し、または生息地の範囲が縮小している鳥獣の保護に関する計画 (根拠: 鳥獣保護管理法第7条)	その生息数が著しく増加し、または生息地の範囲が拡大している鳥獣の管理に関する計画 (根拠: 鳥獣保護管理法第7条の二)
(本県の作成状況) なし	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ニホンジカ(第5期) ◆ カモシカ(第6期) ◆ イノシシ(第4期)

1 第二種特定鳥獣管理計画 (ニホンジカ)

特定計画の内容

- (1) 対象鳥獣 ニホンジカ(第5期)
- (2) 計画期間 令和4年4月1日から令和9年3月31日
- (3) 管理区域 県内全域(3つの地域個体群)



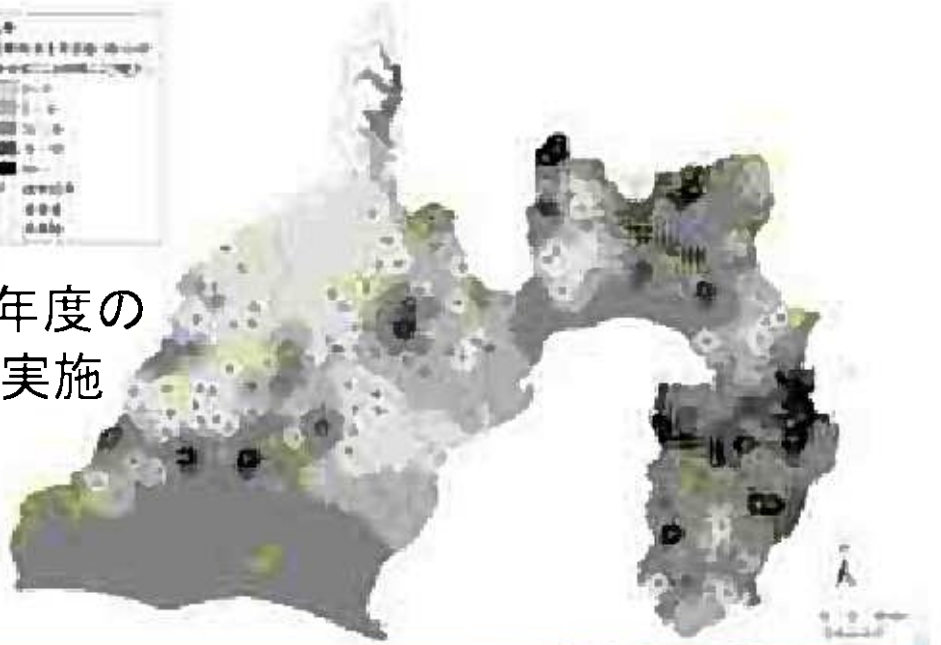
1 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）

(4) 現計画(第4期)の評価

- ① 生息密度調査(糞粒法)を全調査地点を毎年度実施するように改め、生息密度マップを作成(H29~)



マップから次年度の捕獲を計画、実施



1 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）

(4) 現計画(第4期)の評価

- ② 高密度地や密度上昇地で捕獲を推進(H29~R1)

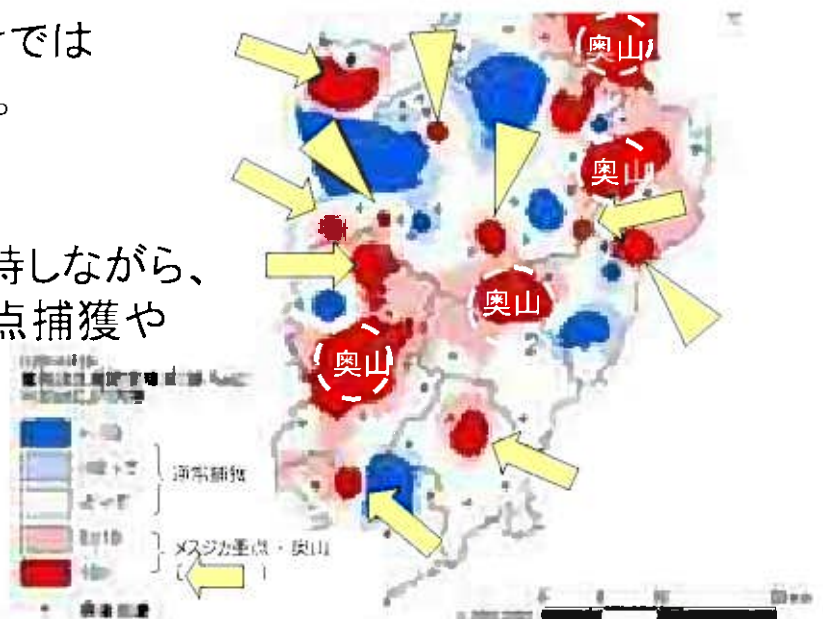
(検討委員からの意見)

コア部分での捕獲だけではシカは散って減らない。

【戦略(R2~)※】

周辺への捕獲圧も維持しながら、コア部分をメスジカ重点捕獲や奥山捕獲で捕獲

※ 富士川以西地域を除く

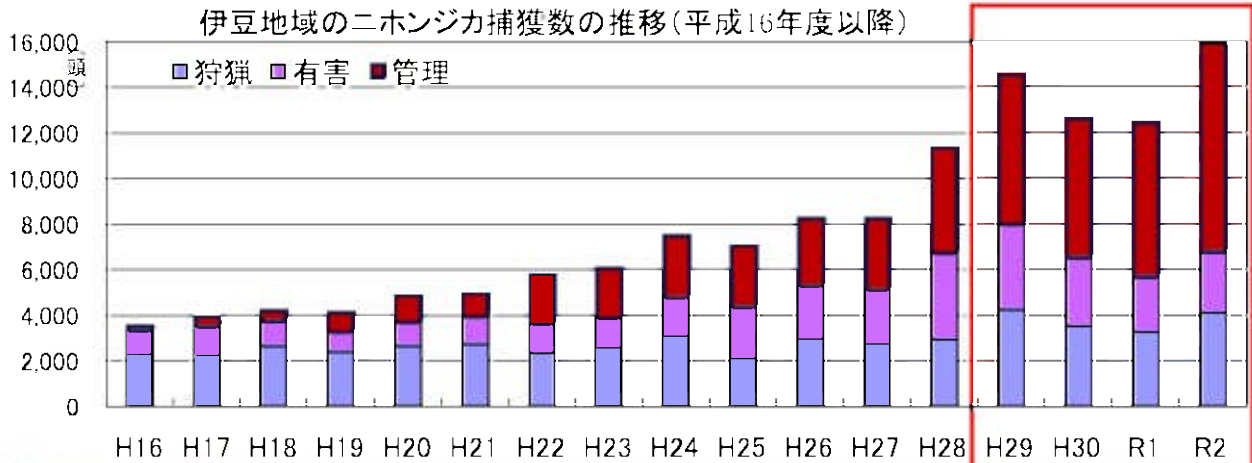


1 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）

(4) 現計画（第4期）の評価

③-1 伊豆地域の捕獲状況

- ・捕獲が強化され、目標頭数(12,000～13,400頭)を達成
- ・令和2年度は狩猟4,134頭、被害防止目的の捕獲2,643頭、管理捕獲9,136頭で合計15,913頭を捕獲



1 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）

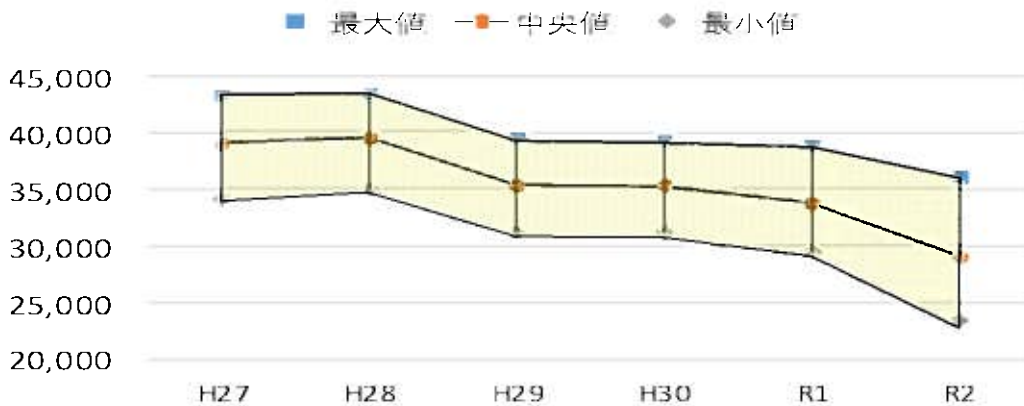
(4) 現計画（第4期）の評価

③-2 伊豆地域の推定生息頭数

H28: 約34,800～43,400頭(中央値: 約39,400頭)
 ⇒R2: 約23,400～36,100頭(中央値: 約29,100頭)

<評価>
 減少に転じたが、
 目標: 5,000頭(R3)
 到達は困難

伊豆地域のニホンジカ推定生息頭数の推移(階層ベイズ法)



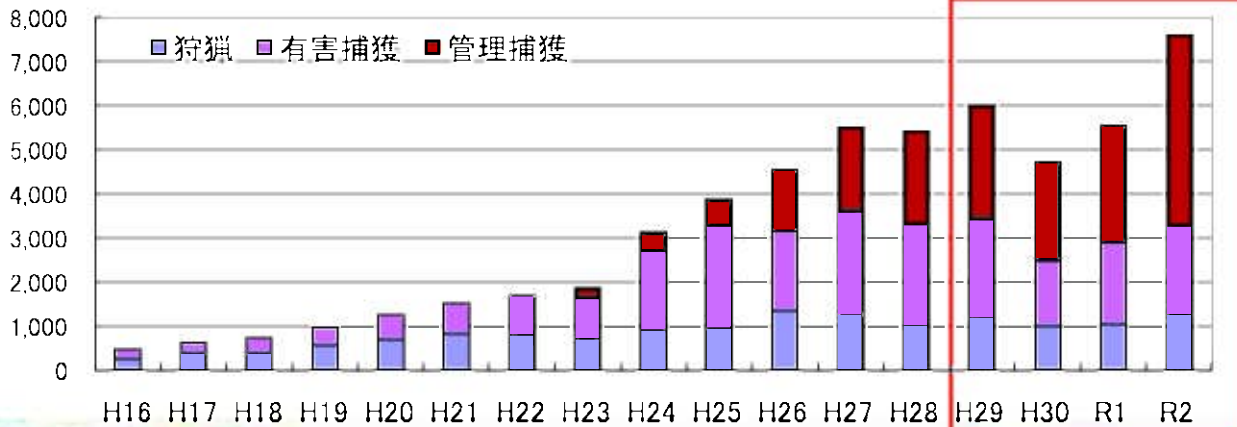
1 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）

(4) 現計画(第4期)の評価

④-1 富士地域の捕獲状況

- ・捕獲は強化されたが、目標頭数(7,000~11,650頭)未達成
- ・令和2年度は狩猟1,270頭、被害防止目的の捕獲2,011頭、管理捕獲4,326頭で合計7,607頭を捕獲

富士地域のニホンジカ捕獲数の推移(平成16年度以降)



1 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）

(4) 現計画(第4期)の評価

④-2 富士地域の推定生息頭数

H28: 約16,800~21,700頭(中央値: 約19,300頭)

⇒R2: 約12,900~20,900頭(中央値: 約16,300頭)

<評価>

減少に転じたが、
目標: 5,000頭(R3)
到達は困難

富士地域のニホンジカ推定生息頭数の推移(階層ベイズ法)

